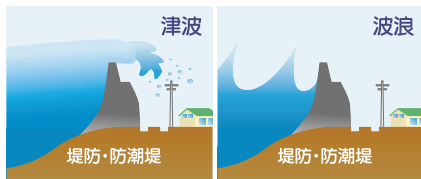


身を守るために知っておきましょう

地震・津波はいつ、どこで発生するか分かりません。津波が到達するおそれがある場所にいるときは、できるだけ早く逃げる必要があります。津波の特徴を知っておきましょう。

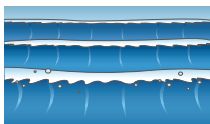
恐るべき津波の破壊力

- 普通の波(波浪)と違い、津波は海底地盤の上下による海水全体の動きのため、海底から海面までのすべての海水が巨大な水の塊となって沿岸に押し寄せ、その破壊力は凄まじいものとなります。
- 津波が陸上に押し寄せた後の引き波も長時間にわたるため、家屋などが一気に海中へと引き込まれてしまいます。



津波は繰り返し襲来する

- 津波は繰り返し襲ってきます。また、最初に到達する波が最も大きいとは限りません。
- 一度波が引いても、津波警報が解除されるまで安全な場所から離れないでください。



津波は河川を遡上する

- 津波は河口から侵入し、何キロメートルも上流に遡上(逆流)することがあります。
- 遡上した津波が、河川堤防を越えて沿川地域に大きな被害をもたらすことがあります。



水深が浅くても危険

- 水中では歩行速度が低下するため、少しの浸水でも避難の妨げになってしまいます。
- 津波は勢いのある水が押し寄せてくるため、深さ15cmでも足元をすくわれてしまう可能性があります。



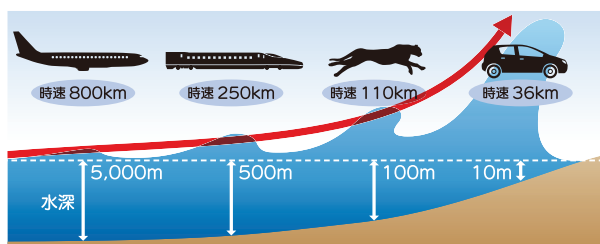
引き波があるとは限らない

- 津波は引き波から始まるとは限りません。
- よく、津波の前には引き波があるとされていますが、地震の種類や震源付近の地形などの影響によっては、いきなり津波が襲ってくる場合があります。



満潮のときは要注意

- 満潮のときは水位が高くなっているため、津波が高くなり、被害が大きくなることが想定されています。



津波の伝わる速さと高さについて

津波は、水深が深いほど早く伝わります。水深が浅くなるほど速度は落ちますが、津波のスピードは非常に速いため、見えてから逃げるのでは間に合いません。また、津波が陸地に近づくにつれ、あとから来る波が前の津波に追いつき、波高が高くなります。強い揺れを感じたらすぐに浸水想定区域外や、高く丈夫な建物などの安全な場所に避難しましょう。

特徴の異なる2種類の津波について

この津波ハザードマップに掲載している2種類の地震モデルにより発生する津波には、以下のように特徴に大きな違いがあります。

地震モデル	日本海溝モデル 海溝型地震	入内断層モデル 内陸直下型地震
震源域		
地震の規模	マグニチュード 9.1	マグニチュード 6.7
津波の影響	津波の到達が.....遅い 第一波到達時間 97分 津波の水位が.....高い 海岸線の最大津波水位 5.4m 津波の浸水域が.....広い 浸水面積 33.0km ²	津波の到達が.....早い 第一波到達時間 2分 津波の水位が.....低い 海岸線の最大津波水位 3.7m 津波の浸水域が.....狭い 浸水面積 2.8km ²

津波浸水想定用語の解説

用語	解説
津波影響開始時間(分)	代表地点(青森県が設定した地区の海岸線から100~500m程度沖合に設定した地点)において地震発生から初期水位±20cmの変化(海辺にいる人々の人命に影響が出るおそれのある水位変化)が生じるまでの時間
第一波到達時間(分)	代表地点において地震発生から第一波の最大到達高さが生じるまでの時間
最大波到達時間(分)	代表地点において地震発生から津波の最大到達高さが生じるまでの時間
最大波津波水位(m)	代表地点における津波の最大到達高さ